



私たちは いなべ市 と共に歩んでいます

=安全・環境経営レポート=



お客様へ **安心・安全・確実**をお届けします
地球環境へ 資源化を通じて**環境保全**に貢献します

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

平成20年7月(平成19年度活動報告)

わたしの環境経営理念と会社プロフィールです

わたしたちが扱う廃棄物は大切な資源です。従って、収集運搬から資源化までの全工程において、一人一人が大切な資源として取扱っています。

また、経営面においても「環境と企業経営は、対立する軸ではなく、同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が進展する」との考えで企業活動を展開します。

こうした理念のもと、お客様に対し、また、地球環境に対し右記の約束を行い実行します。

わたしの約束



お客様へ
安心・安全・確実をお届けします
地球環境へ
資源化を通じて**環境保全**に貢献します

代表取締役社長 生川好彦

事業概要

- 企業活動から発生する廃油・廃酸・廃アルカリ・タンクスラッジ・廃溶剤等をブレンドし、セメント工場での補助燃料として再生処理して供給（自社開発処理プラント）
- 企業活動等から発生する汚泥・ばいじん等をセメント原燃料として供給

産業廃棄物の中間処理（営業品目）

産業廃棄物 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・ばいじん
特別管理産業廃棄物 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ

産業廃棄物の収集運搬（三重県内営業品目）

産業廃棄物 燃え殻・廃酸・廃アルカリ・木くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず等・鉋さい・がれき類・汚泥・廃プラスチック類・廃油・ばいじん
特別管理産業廃棄物 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ・特定有害廃油・特定有害汚泥
※三重県のほか、相模原市・福井県・岐阜県・岐阜市・愛知県・名古屋市・豊田市・岡崎市・滋賀県・大阪府・大阪市・堺市・高槻市・岡山市・福山市・高知市の6府県10市について許可取得（営業品目は、各自治体で異なります。）

船舶廃油処理事業（四日市港の特定の岸壁利用）

いわゆる船舶洗浄水の処理事業です。中部マリン・サービス(株)及び日本トランスシティ(株)との連携事業であり、四日市港で唯一、船舶を特定せず廃油処理事業を行う事業者です。（これまでは、わざわざ関東や関西地区に運搬し陸揚げ処理せざるを得ませんでした。）

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

所在地 統括本部 〒510-0814 三重県四日市市清水町4番45号
TEL059-332-3711 FAX059-332-2132
北勢工場 〒511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
TEL0594-72-7850 FAX0594-72-7851

設立 平成12年3月1日
新日本技研(株)から環境事業部門を分社（通算事業実績33年超）

事業規模 資本金 3,000万円
社員 53人（平成20年3月31日決算日現在）
売上高 1,362百万円（同上）

区分 \ 決算年度 (3月末)	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
社員数(人)	30	32	39	42	43	52	53
売上高(百万円)	765	904	1,042	964	1,027	1,169	1,362

許可・資格等

- 産業廃棄物処分業許可（平成17年5月23日～平成22年5月22日有効・三重県知事）
- 特別管理産業廃棄物処分業許可（同上）
- 産業廃棄物収集運搬業許可（平成17年6月15日～平成22年6月14日有効・三重県知事）
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可（同上）
- 一般貨物自動車運送事業・第一種利用運送事業許可（中部運輸局長）
- 船舶廃油処理事業許可（中部運輸局長）
- 北勢工場・三重県産業廃棄物税条例の認定「再生施設」
- 毒物劇物一般販売業登録業者（平成19年7月1日～平成25年6月30日有効・三重県四日市保健所長）

- ISO14001 認証取得（2004年11月1日北勢工場取得・2005年11月10日全社拡大認証取得）
- 平成17年3月25日（財）産業廃棄物処理事業振興財団・産業廃棄物処理業経営塾優秀賞（生川好彦受賞）
- 平成17年6月14日（社）全国産業廃棄物連合会地方功労者表彰（生川好彦受賞）
- 三重県環境森林部「企業環境ネットワーク・みえ」会員
- みえ・グリーン購入倶楽部会員 グリーン購入ネットワーク会員

継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です

「わたしの約束」を果たすために、安定・継続的な資源化の経営理念で取組めます。



産業廃棄物の排出企業、廃棄物処理業者、資源化製品利用企業の三者間の営業取引において、三者のいずれかが一時の利害や自己の利益のみ追求する一人勝ちの経営では、安定・継続的な資源化への取組は確立されません。

資源の循環は、経営の循環なくして成立しないと考えます。

連携企業が協働して、安定・継続できる経営を理念として取組んでいます。

創業以来、太平洋セメント(株)藤原工場様とは、こうした理念のもと協働・連携させていただき、平成 19 年度においてもお取引先 830 社の北勢工場への搬入廃棄物について再資源化し有益な取組ができましたことに感謝します。今後とも安定・継続的な連携をお願いします。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)
代表取締役社長 生 川 好 彦

循環型社会構築へ



持続可能な地球の未来を拓く先導役として、セメント産業が循環型社会構築への貢献を進めます。

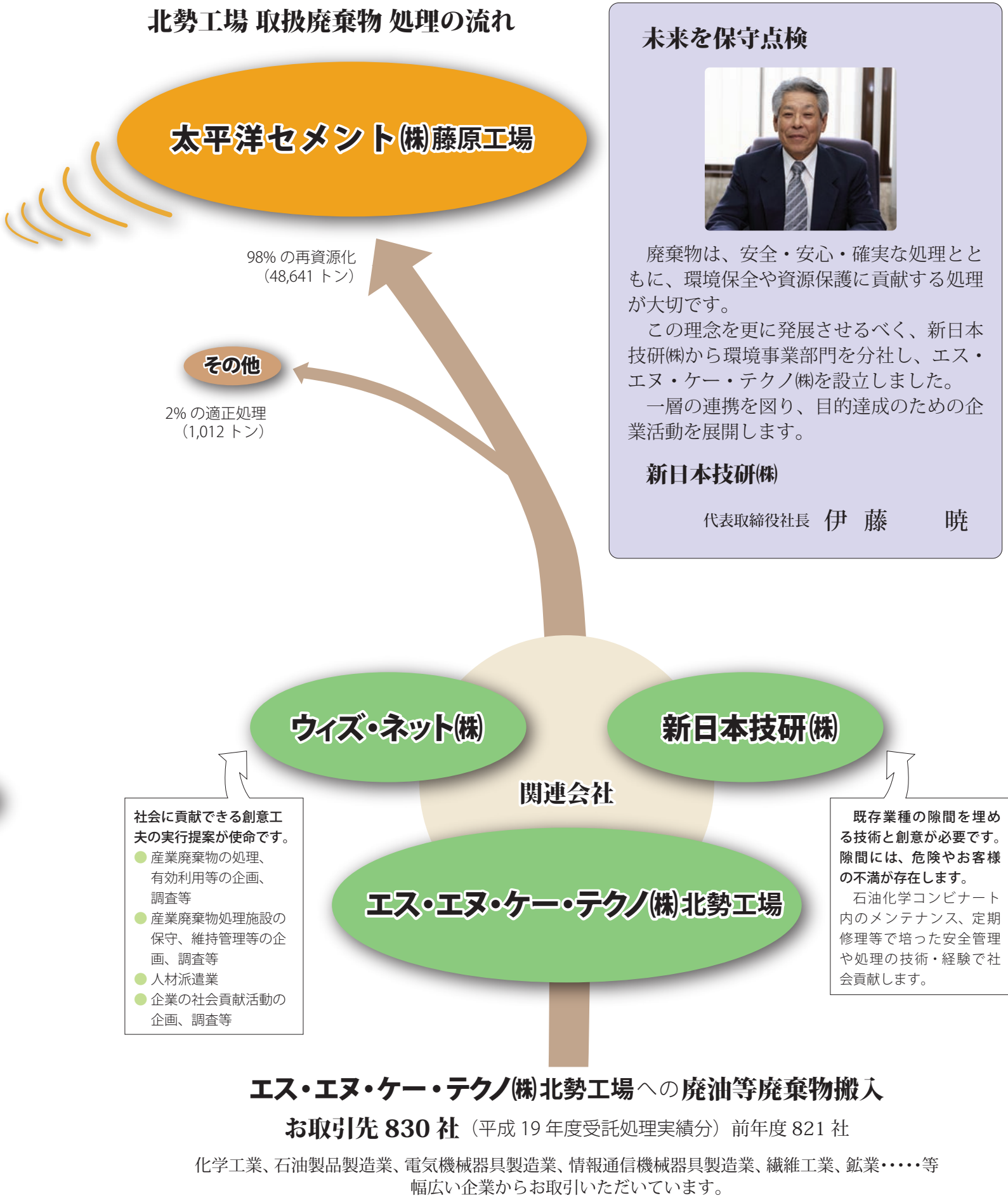
エス・エヌ・ケー・テクノ(株)グループ等とも協働・連携して地域社会への貢献とも調和した事業活動を展開しています。

太平洋セメント(株)藤原工場
工場長 村 岡 富美男

船舶廃油処理事業



三社が連携し、四日市港に入港する船舶の船舶洗浄水処理事業を行うことについて中部運輸局長の許可を得、体制が整いました。これまで、わざわざ関東や関西地区に運搬し処理せざるを得ませんでした。入港船舶の利便と海洋の環境保全に取り組めます。



廃油等の再資源化処理プラント・北勢工場です

■北勢工場は

●廃油等の再資源化処理施設です

産業廃棄物の廃油、廃酸、廃アルカリ等をセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）する環境負荷のほとんど無い再資源化施設です。

- ・産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処分業許可処理能力

混練施設 220.5 t / 日
中和施設 48.0 t / 日
- ・無排水、かつ、熱処理工程の無い無煙の処理システム

・消費エネルギーは、年間使用動力 19 年度約 193,500 k w h

・再資源化原料は、搬入廃棄物のほか搬入廃棄物の 0.4%程度 の中和剤のみ

●自社開発の廃棄物処理プラントです

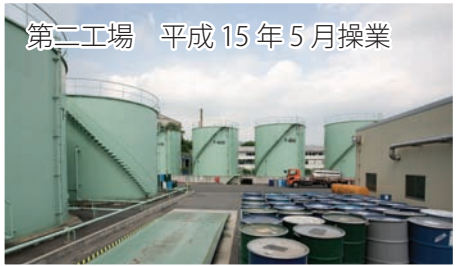
平成 7 年 12 月建設（当時は新日本技研(株)・平成 12 年 3 月新日本技研(株)から環境事業部門を分社しエス・エヌ・ケー・テクノ(株)を設立、同年 6 月から同社が営業開始
平成 15 年 5 月北勢工場を拡充整備（第二工場）

●ISO14001 認証取得工場です

●三重県産業廃棄物税条例の「再生施設」です

●船舶廃油処理事業許可施設です

北勢工場全景



◎北勢工場取扱廃棄物の 9 8 %を再資源化

平成 1 9 年度にお取引先 830 社から処理委託され、北勢工場へ搬入された廃油、廃酸、廃アルカリ等 49,653 トンにつきましては、北勢工場でセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）して、48,641 トンを太平洋セメント(株)藤原工場へ供給しました。

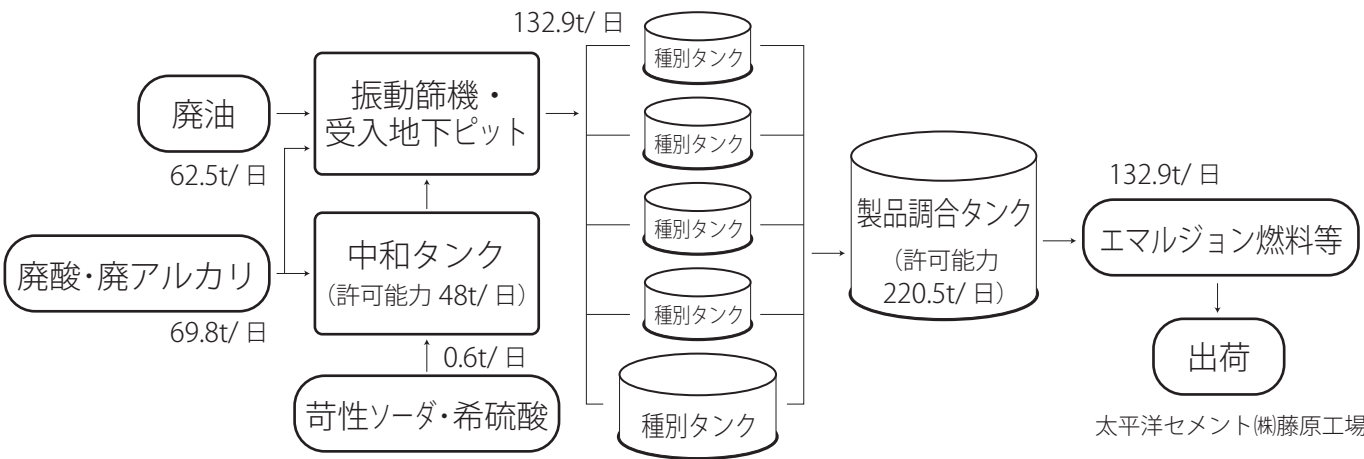
廃油等の再生処理による太平洋セメント(株)藤原工場への補助燃料等搬入量

年度(平成)	補助燃料等搬入量(利用実績) (トン)
19 年度	48,641
18 年度	46,494
17 年度	45,874
16 年度	49,677
15 年度	42,346
14 年度	33,973

※補助燃料は、重量ベースで石炭とほぼ同程度のエネルギー代替

平成 1 9 年度廃油等の再生処理による再資源化量は、48,641 トンで、搬入廃棄物の性状等からセメント焼成用補助燃料としての利用実績は 37,301 トン、残る中和処理水 11,340 トンは、セメント製造施設を運転管理する工程で、工業用水を用いて温度調整する必要があるため、この場合の工業用水の一部代替として利用

19 年度廃油等の再生処理フロー・実績（※「〇〇 t / 日」は 19 年度処理量を 366 日で除した数値）



廃油等の補助燃料への再生処理（中間処理）工程（詳細は次ページ参照）

- お客様から集荷した廃油等から異物を除去し、化学的、物理的特性に応じて種別タンクに仕分けして貯蔵
- 製品企画に適合する調合割合で混合・攪拌するなどして製品化
- セメント焼成工程のロータリーキルンの補助燃料として燃焼処理

高温燃焼（1,450℃超）により、ダイオキシン等の有害物質の生成は完全抑制

◎ 廃油等の補助燃料への再生処理 (中間処理) 工程



ローリー荷下作業
入荷した産廃は地下ピットへ投入



ドラム缶吸引処理作業
バキューム車で吸引後地下ピットへ投入



タンクヤード

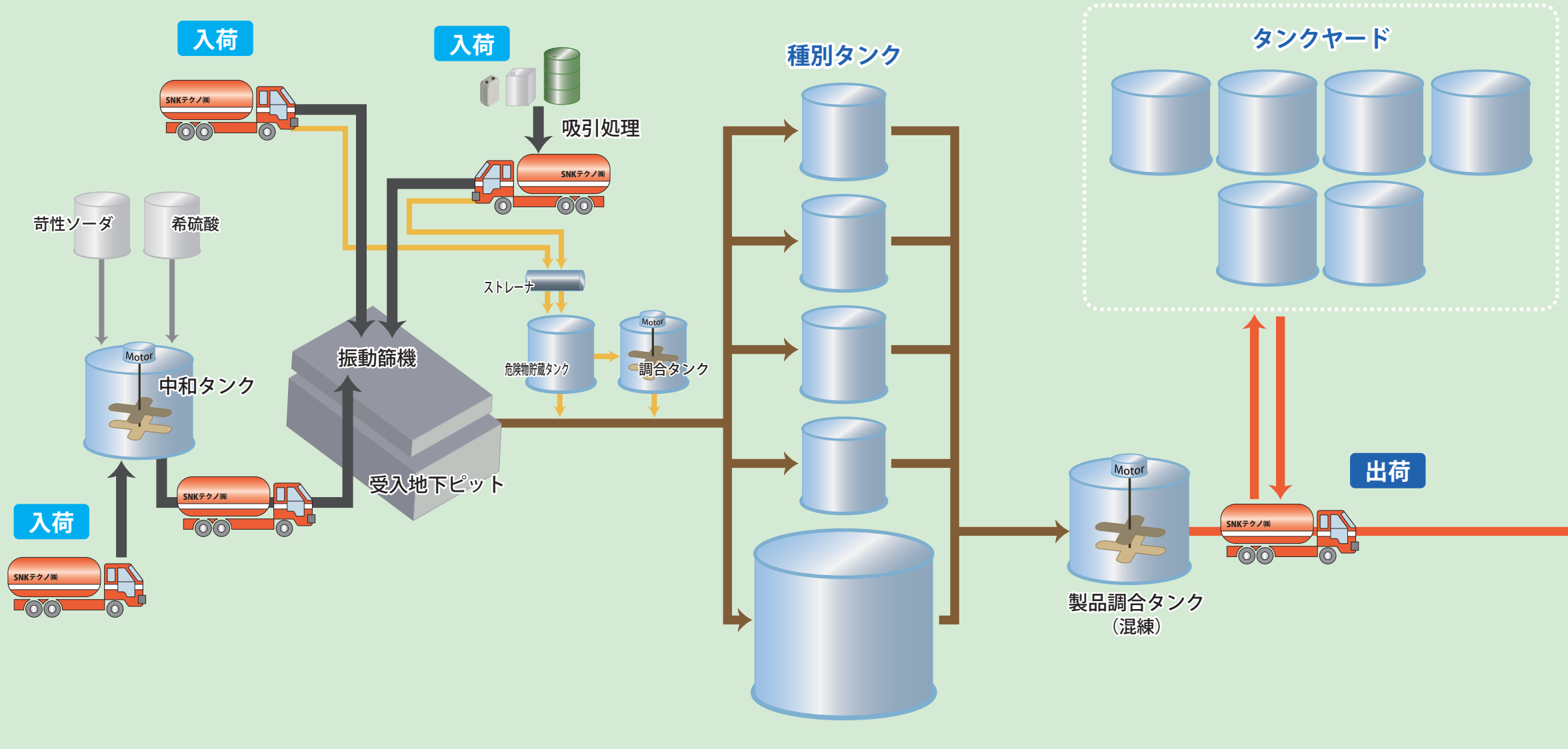


太平洋セメント(株)藤原工場 5号キルンタワー



5号キルン

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場



中和タンク 入荷した廃液を 中和タンクへ投入し
苛性ソーダまたは希硫酸により中和処理



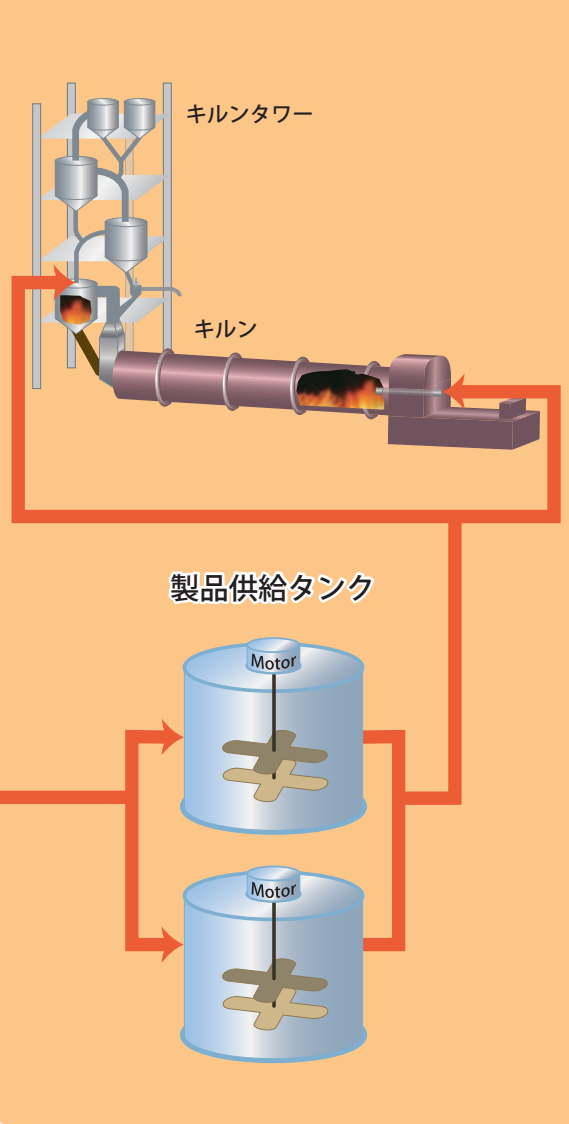
種別タンク・製品調合タンク
入荷した産廃を規定カロリーにブレンド



製品出荷作業
ブレンドされた製品をローリー車へ積込・出荷



太平洋セメント(株)藤原工場



太平洋セメント(株)藤原工場内製品供給タンク
出荷製品は製品供給タンクへ一時貯蔵



◎ 廃油等の再資源化に取り組む北勢工場の品質管理体制

産業廃棄物の排出事業者は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、委託した産業廃棄物の最終処分が終了するまで、廃棄物の処理が適正に行われるために必要な措置を講じるよう努めなければならないと規定されています。わたし達は、この「排出事業者責任」と「産業廃棄物処理業者責任」をともに果たせる体制が大切と考え取り組んでいます。

北勢工場試験分析室の取組

- 廃油等のセメント焼成用補助燃料等への利用推進のための品質管理
セメントの原燃料は全てセメントに取り込まれ、二次廃棄物はありません。セメントの品質確保を絶対の要件として、責任を持った品質管理を行います。
- 適正処理方法の選択
当社との契約前の事前分析、原料受入分析等を行うほか、お客様の廃棄物の適正処理方法等の相談にも、できる限り応じられるように活用しています。
- 廃棄物データシート（WDS）の活用
お客様には「廃棄物データシート」の提出をお願いしています。双方の協力が、廃棄物の再資源化や適正処理を進めます。
- 安全・効率的な再資源化処理等の研究
企業の生産活動の変化に伴い、廃棄物の性状や量も変化することから、お客様のニーズに対応出来るように努めています。



※平成 20 年 5 月 試験分析室社員が環境計量士（濃度関係）国家資格を取得

測定実施項目と内容		測定実施時の環境配慮事項等
全塩素量測定	塩素含有量を燃焼分解後の電量滴定法で測定	排気ガスは独自の脱臭スクラバーで脱臭
発熱量測定	発熱量を燃焼による水温上昇によって測定	有害燃焼ガスはスクラバーで吸着処理
蛍光X線測定	蛍光 X 線を用いて元素含有量測定 (定量分析で塩素・硫黄・リン・臭素・ヨウ素測定) (FP 法分析 (半定量分析) ナトリウム～ウラン測定)	廃液の大まかな構成物質の把握が可能となり一層の適正 処理に貢献。リサイクル可能な金属の検出も可能
pH 測定	試験紙の色の変化により測定または pH メーターでの水素イオン濃度変化の直接測定	環境負荷の小さい試験紙を優先使用
中和量測定	中和剤使用量を中和滴定によって測定	市販の中和剤だけでなく廃液（廃酸・廃アルカリ）同士での中和も一部実施
引火点測定	タグ密閉式自動測定器で測定	省エネタイプの冷却水循環装置を使用
フッ素イオン測定	フッ素イオン濃度をフッ素イオン電極で直接測定	有機フッ素測定による資源化の可能性を検討中
クロム (VI) 測定	六価クロムを指示薬着色により吸光度測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
過酸化物質測定	ヨウ素でん粉反応を利用した滴定で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
混触試験	廃棄物の混合によって起こる反応性の有無についての測定	反応を抑えて処理する廃液混合を模索し廃棄物を処理する工夫
溶解試験	固形廃棄物の溶解処理の可否試験	溶解処理できる廃棄物量の更なる拡大を検討中
汚泥の試験	水分量測定、熱灼減量測定、必要に応じ灰分の蛍光 X 線分析	燃焼ガスはスクラバー吸着処理

※その他の環境配慮
・ 測定後のサンプル・試薬の約 90%はセメント原料に再利用
・ 分析室発生廃液は分析器具の洗浄水のみ

北勢工場の「安全」・「環境」対策と環境クレームの状況です

北勢工場は、廃棄物の再資源化処理プラントであり、この企業活動を通じて環境や地域社会に貢献できればと願っています。

環境クレームについては、様々な事例を想定して、発生させない事前の取組を基本としています。平成 17 年度には、悪臭に対する環境クレームが 2 件発生しました。

環境クレームに対しては情報を開示し、ISO14001 のツールを活用して、問題解決に向け全社的に展開しています。平成 18 年度・19 年度においては、環境クレームはありませんでした。



「安全」・「環境」を北勢工場全社員の行動規範として取組み、工場の「安全」・「環境」対策を一層推進します
取締役工場長 藤村 等

◎ 北勢工場の「安全」・「環境」対策

北勢工場においては、「臭気対策」・「騒音対策」・「飛散、流出、浸透防止対策」・「防火対策」・「緑化対策」等に取り組んでいます。

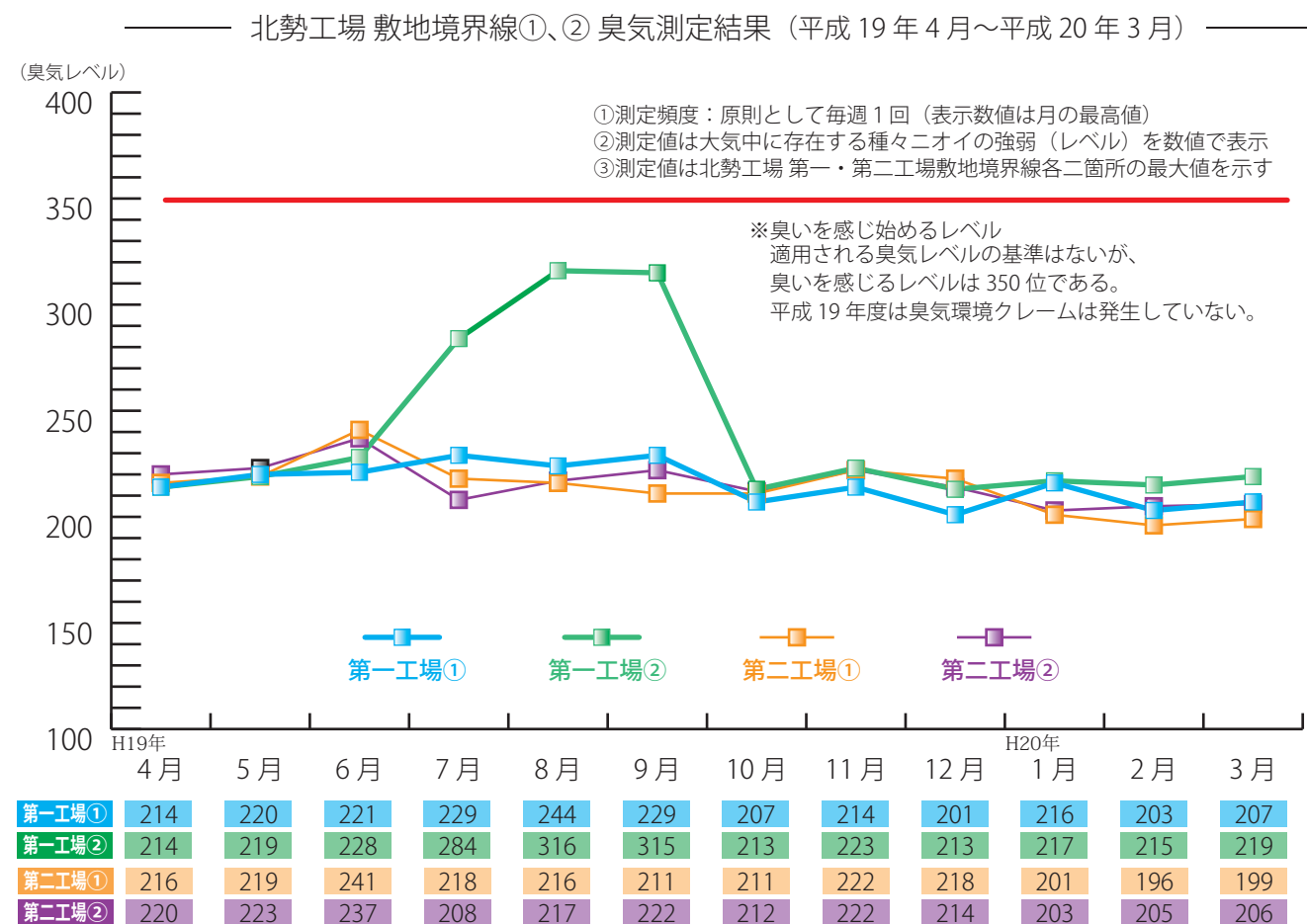
臭気対策

- 臭気対策は、北勢工場でも最も留意すべき事項の一つですので、ISO14001 の環境目標（16 ～ 18 年度）に 4 項目の悪臭（①分析室内悪臭 ②振動篩及び脱臭設備悪臭 ③第二工場タンク抜出時悪臭 ④タンク清掃時の悪臭）対策を定め、平成 18 年度中の脱臭設備の整備に取り組み、計画通り完工しました。

臭気対策についてはこれらの対策に止まらず、搬入される産業廃棄物に適切に対応できるよう、北勢工場試験分析室を中心として、継続して研究に取り組んでいます。

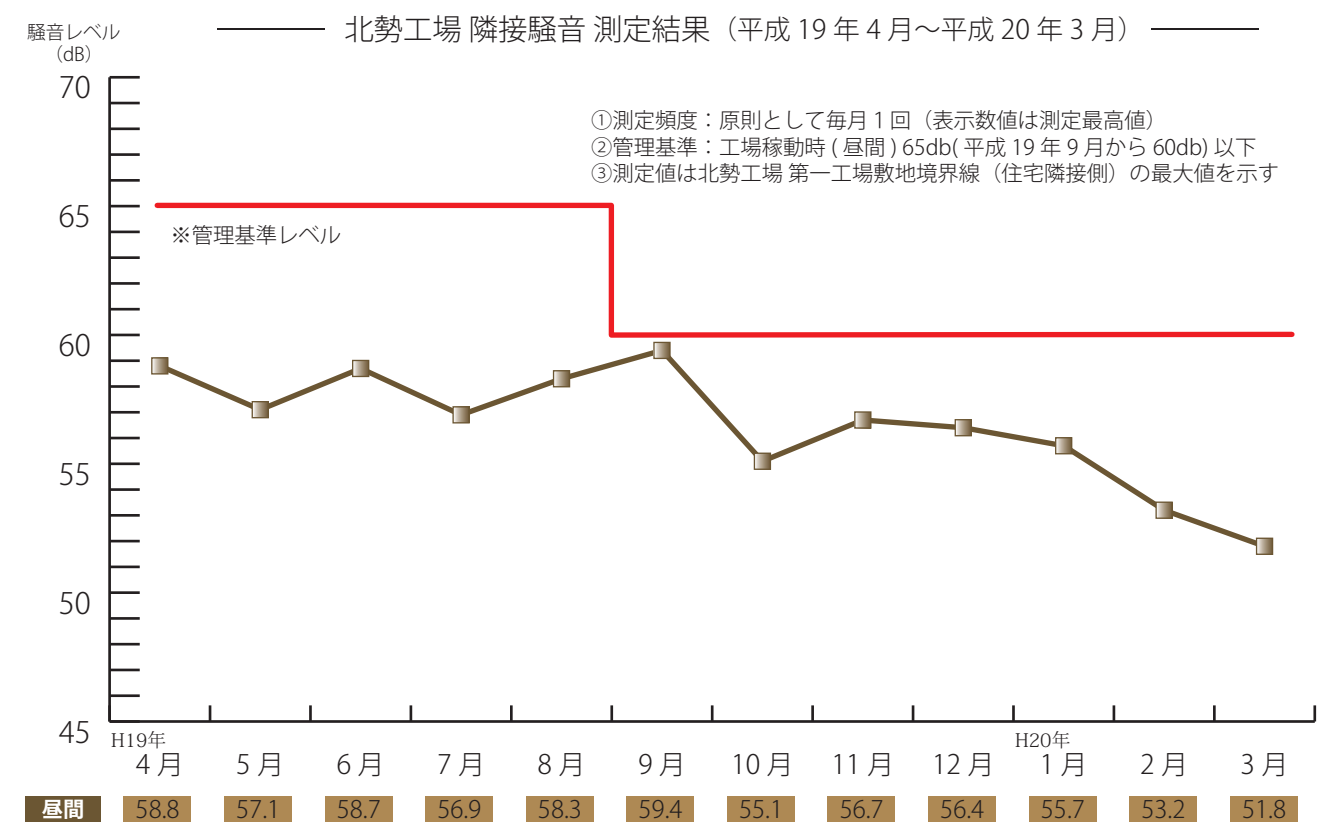
- 臭気の除去は、スクラバー方式（湿式）3 連 2 系列及び消臭剤散布設備の二重対策を取り入れています。





騒音対策

- 構造物での遮蔽壁（吸音板）の設置、アイドリングストップ、夜間作業は原則行わない等の対策を行っています。



飛散・流出・浸透防止

- 防油堤、油水分離槽の設置、コンクリート又はアスファルト舗装による浸透防止対策等を行っています。また、最終の油水分離層には油膜検知器を設置し、昼夜を問わず廃油の流出が発生すれば警報を発砲するとともに警備会社へ自動的に通報するシステムを整備しています。

工場排水口における水質管理基準（いなべ市環境保全協定）

測定項目	管理基準	19 年度測定値（毎月 1 回）
水素イオン濃度（水素指数）	5.8 以上 8.6 以下	6.1 ～ 7.5
生物化学的酸素要求量	25mg/ℓ（日間平均 20mg/ℓ）以下	2.7 ～ 11.0 mg/ℓ
浮遊物質	90mg/ℓ（日間平均 70mg/ℓ）以下	2.0 ～ 8.0 mg/ℓ
大腸菌群数（19 年 9 月～測定）	3,000 個/cm ³ 以下	1 未満～ 78 個/cm ³
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）	5mg/ℓ 以下	1mg/ℓ 以下

防 火 対 策

- 工場には火を使う処理工程はありません。危険物タンクには、泡消火設備、消火ポンプ設備を設置して、不測の事態に備えています。

その他

- 工場周辺の緑化
- 廃棄物回収容器のリサイクル
 - 一斗缶・ドラム缶は 100%リサイクル
 - ポリドラム・ポリ容器は検討中
- 小さいスペース・ゆとりある廃棄物保管
 - 「滞留させずにその日に処理」を原則に運営することが、不測の事態にも備えられ、安全・環境保全に第一との創業時の決意と伝統です。



工場周辺で飛び交うホタル
H20.6.6 撮影

○ 北勢工場への環境クレーム

平成 19 年度・平成 18 年度は、環境クレームはありませんでした。

平成 17 年度は、下記の通り悪臭に関する環境クレーム 2 件がありました。

発生年月日	クレームの相手方	発生の状況	原因	対応措置
平成17年 6月28日	通行人	強臭の廃油をローリー車から地下ピットへ受け入れたとき、その臭いが工場外へ一時的に流出	通常受け入れている廃油より悪臭が強かった	直ちに当該廃油を処理し、以降、当該廃油の受入を中止している
平成17年 7月25日	近隣の企業	タンクへ貯蔵していた廃液中の悪臭ガスが気温の上昇とともにタンク外に流出	温度上昇に伴うこうした事例がなく、深く考慮していなかった	直ちに当該廃油を処理し、以降、当該廃油の受入を中止している

廃棄物の再資源化を進める廃棄物収集運搬事業です

わたしたちの廃棄物収集運搬理念

わたし達が収集運搬する廃棄物はほとんど再資源化されます。従って、私たちは、大切な資源を収集運搬していると考え行動します。

赤い車輛は、創業者の安全・適正な収集運搬の決意です。創業時の決意と伝統を引き継ぎ、収集運搬する廃棄物を一人一人が大切な資源として取扱っていきます。



◎ 再資源化廃棄物の収集運搬目標と実績

汚泥等については、その特性により施設設備の整備状況や処理コストなどから容易に再資源化の進まないものがたくさんあります。こうした汚泥等の再資源化に向けて太平洋セメント(株)藤原工場様や関連会社のウイズ・ネット(株)と連携・協働して平成 18 年度実績を基点とする ①再資源化廃棄物の収集運搬量の増量 ②再資源化廃棄物の収集運搬率の向上を目標とする 5 カ年計画（平成 19 年度～ 23 年度）に取り組んでいます。



営業部長 伊藤 祐介

◎ 安全・環境に優しい収集運搬を行うため 6 種類・30 台の車輛を保有

車の種別	利用区分（当社の主たる利用区分）	安全・環境対応等（特徴）
粉粒体運搬車	粒子の小さい飛散性のある固形物の運搬	長距離・高所に粉粒体を排出可能
フックロール車	汚泥等バラものの運搬	キャリアと荷台が分離できるアーム式脱着装置付コンテナシステム車
バキューム車	液体物の運搬	真空ポンプでタンク内を減圧して吸引、加圧して排出
タンクローリー車	液体物の運搬	3 室に区画され、吸入・排出時は動力使用
平ボディ車	容器類の運搬（ドラム・コンテナ・フレコンバック等）	8t パワーゲート車輛装備
ダンプ車	汚泥等バラものの運搬	下水道汚泥専用車装備

- ・バキューム車の更新時にハイブリッド車導入（平成 18 年度）
- ・下水道汚泥の運搬専用車輛導入（完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備・18,19 年度）



● 再資源化利用廃棄物の収集運搬目標（18 年度実績基点）

- 平成 19 年度から 23 年度の 5 カ年において、年平均で
- ①再資源化廃棄物の収集運搬量を 6 万トン以上に増量（19 年度実績 65,350 トン）
 - ②再資源化廃棄物の収集運搬率を 9 0 %以上に向上（19 年度実績 91.0%）

● 平成 19 年度廃棄物収集運搬実績

（ ）内は平成 18 年度実績 単位：t

廃棄物区分 処分内容	北勢工場への 搬入産廃 （廃油等）	他社中間処理施設 への収集運搬産廃 （汚泥等）	他社中間処理施設 への収集運搬一般 廃棄物	計
セメント原燃料利用 (A)	(27,549) 29,879	(12,908) 29,278	(5,891) 6,193	(46,348) 65,350
焼却処分等	(852) 454	(5,549) 6,006	(—) —	(6,401) 6,460
計 (B)	(28,401) 30,333	(18,457) 35,284	(5,891) 6,193	(52,749) 71,810
直接の再資源化収集運搬率 (A÷B)	(97.0%) 98.5%	(69.9%) 83.0%	(100.0%) 100.0%	(87.9%) 91.0%

※ 平成 19 年度から平成 23 年度の 5 カ年間、三重県下の流域下水道で発生する汚泥を、全量セメント原料として再資源化处理する入札に、太平洋セメントと当社を含む収集運搬事業者 2 社の 3 社が共同参加して落札、現在、契約に基づいて事業実施、当社においては、生活環境に及ぼす影響に最大限留意して、汚泥の運搬専用車輛（完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備）を導入して収集運搬しています。

「安全」・「環境」が組織・全社員の行動規範です

◎ ISO14001 認証取得・活動経過等

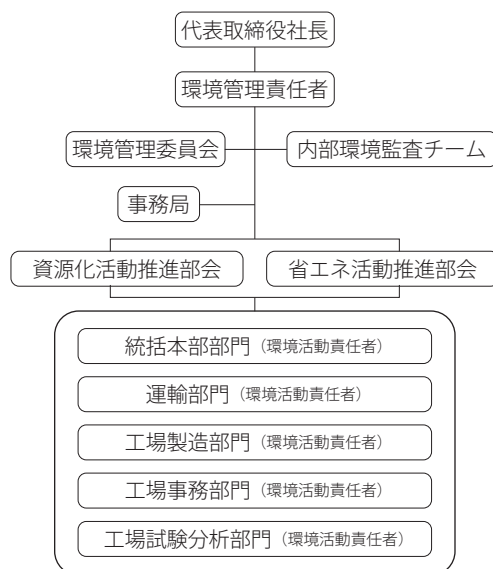


2004 年 11 月 1 日 北勢工場取得
2005 年 11 月 10 日 全社拡大認証取得
2007 年 10 月 12 日 更新

環境保全推進体制（平成 19 年度）

ISO14001 に基づいて、環境マニュアルや手順書を作成し、継続的な改善に取り組んでいます。

組織としては経営者（最高責任者）を代表取締役社長とする次の体制で取り組んでいます。



環 境 方 針

No. _____

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社はこれまでの環境方針を見直し、全ての業務が地球環境に与える影響を考慮し、全社員参加のもと環境と共に歩む企業を目指します。

1. 環境に配慮した事業活動

全ての業務における環境影響を適切に評価し、廃棄物を発生抑制し環境の保全、汚染の予防に努め地域社会に、より信頼される事業活動を推進する。

2. 資源化を通じて環境保全に貢献

本業の産業廃棄物処理業において、資源化を通じて継続的な環境負荷の低減に挑戦する。

3. 関連法令等の遵守

事業活動に関連する、法令等を明確に把握し遵守する。

4. 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムは定期外部審査、内部監査を行ない定期的に見直し改善し、組織で働く全ての人に対し環境関連に関する教育、啓蒙活動を継続する。

環境方針は求めに応じ、利害関係者に開示し、事業活動に関わる全ての従業員、協力会社に周知する。

2007 年 4 月 1 日

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

代表取締役社長

生川 好孝

ISO14001 環境目標と実績

● 認証取得時目標と実績（平成 16 年～ 18 年度）

電気、用紙、燃料、中和剤等の使用量の削減と悪臭対策としての設備整備等 15 項目を環境目標に設定し継続的な改善に取り組んだ結果、14 項目で計画達成、1 項目（工場事務部門省エネ）が未達成でした。

● 認証更新時目標（平成 19 ～ 21 年度）

使用量の削減等については、社員の意識や行動が定着してきたことから、環境目標とはせず、管理的な項目として継続的に取り組むこととしました。

今回、認証更新を契機に、本来の業務を活かしての環境に配慮した活動が出来ないかといった視点から検討し、環境方針及び環境保全組織も変更しました。

今後 3 年間の目標は、その第一歩として実業務に即した有益な側面を取り入れ、当面 10 項目の環境負荷低減に取り組むこととしています。

◎ 組織・全社員の「安全・環境」意識を高めるための取組

● 経営トップと安全管理室による全職場の安全・環境パトロールの実施（19 年度）

実 施 経営トップパトロール 2 回

安全管理室定期パトロール 10 回

実 施 者 生川社長 他 安全管理室 3 名

指摘事項 改善指摘事項 81 項目

うち 指摘事項是正確認 75 項目

指摘事項未是正 5 項目

（一定の準備期間が必要・計画的に実施中）



※安全管理体制

社長 — 安全管理室長 — 安全管理責任者（統括本部）— 安全委員（1 名）
安全管理責任者（運輸部）— 安全委員（3 名）
安全管理責任者（北勢工場）— 安全委員（2 名）

● 社会貢献活動への取組

地域社会の一員としての認識や活動は、企業活動において大切な事項の一つだと考えます。

★地域の草刈り・清掃作業の実施

・平成 19 年 5 月 28 日・30 日

統括本部（四日市）、北勢工場（いなべ市）で実施

・平成 19 年 11 月 9 日 統括本部（四日市市）で実施

★当該レポート裏面に「いなべ市の案内」掲載

様々な地域から工場見学に来ていただく皆様等にご紹介することで少しでも地域に貢献



★三重県環境学習情報センター指定管理者への応募

廃棄物の再資源化事業を営む企業として、環境分野での社会貢献事業への参画や行動を検討する中で、環境学習分野での社会貢献事業として「三重県環境学習情報センター指定管理者」へ応募しましたが選定されませんでした。事業企画提案等は評価いただきましたが、全国レベルで指定管理者としての実績を評価された企業を選定されました。

今後も、こうした環境に関する社会貢献事業への参画に取り組めます。

★他企業の社会貢献活動企画等の支援

関連会社 ウィズ・ネット株式会社を通じて、お取引先企業の環境に関する社会貢献活動企画等を支援

● 営業担当が率先実行する環境への取組

★クールビズでの営業活動

産業廃棄物の再資源化に取組む企業として、クールビズでの営業活動を実行しました。

★営業担当への環境問題等の定例研修(毎月一回)

(研修課題例)

- ・最近あった廃棄物処理法に関する具体的事例についての検討
- ・営業担当から見た当社の強み・弱みについてのブレインストーミング
- ・亜臨界水分解技術による有機性廃棄物の処理の概要
- ・産業廃棄物処理に伴う排水処理についての考察・・・等



● 「グリーン購入」への取組

- ・平成 18 年 5 月 1 日から①OA用紙・印刷用紙②文具・事務用品③照明ランプ④車両を対象に取組みを開始(※平成 18 年 12 月ハイブリッド 4t タンク車購入)
- ・平成 18 年 7 月 28 日 みえグリーン購入倶楽部・グリーン購入ネットワークに入会
- ・平成 19 年 11 月 9～10 日 リーディング産業展みえ会場(四日市ドーム)で開催された「みえ・グリーン購入倶楽部スタンプ&クイズラリー」に参加・エコバックを景品の一部として提供
- ・平成 19 年 10 月 3 日 みえ・グリーン購入クラブ現地研修会参加

● 社員からの安全改善提案・標語募集

安全標語(44 名 90 件応募・優秀作品 6 点表彰 ※18 年度 33 名 67 件)

- | | |
|-----------------------------|--------|
| ● みんなで参加の安全会議 小さな発言 大きな効果 | (腰山隆行) |
| ● 急ぐより基本に戻って再確認 みんなで築こう安全職場 | (伊藤英人) |
| ● ヒヤリハットが教えてくれる 大きな事故の防止策 | (山下浩之) |
| ● 慣れと油断が命取り 指差呼称で安全作業 | (種村祐也) |
| ● 慣れた作業も基本から ルールを守ってゼロ災害 | (小森康生) |
| ● 慣れると忘れる安全意識 初心に戻って指差し呼称 | (柴原 明) |

安全改善提案(102 件 ※18 年度 27 件)

安全・環境意識の高まりが、積極的なグループ提案に繋がりました

● 事故や緊急事態の対処・環境保全訓練の実施

- ・平成 19 年 4 月 17 日 ドラム缶廃液漏洩処置訓練
- ・ 7 月 13 日 第一工場でのタンク火災、液洩れ処置訓練
- ・ 11 月 8 日 緊急通報訓練(北勢工場タンク火災発生想定)
- ・平成 20 年 3 月 6 日 危険物貯蔵タンクの泡消火設備の一体的な点検訓練



● 専門分野教育・訓練の実施

- ・平成 19 年 5 月 29 日 北勢工場混練前処理設備新設に伴う機器操作、作業手順の教育訓練
- ・ 9 月 9 日 地震に関する研修、消火器の正しい取扱方法
- ・ 9 月 26 日 タンク火災初期消火活動訓練、消防ホース延長・巻取訓練
- ・ 10 月 19 日 脱臭用スクラバー吸収液の変更運用教育

● 安全・環境に優しい収集運搬教育・訓練

★安全衛生会議の開催(毎月 1 回)

運輸部門関係者全員で、安全・安心・適正な収集運搬のため定例会議を開催(議題等の一部)

- ・日常点検の再徹底と不備な箇所の修理等について
- ・指差し呼称(職場の 6 S 及び安全運転ヨシなど)の徹底
- ・廃棄物の引取り時の「引取り点検チェック表」点検項目の履行の徹底
- ・ISO14001 の更新審査について

★収集運搬教育・訓練の実施

(事例)

- ・収集運搬車両の構造教育の実施
- ・収集運搬車両で運搬中の廃液漏洩事故処理手順
- ・自動車点検基準の改正内容について
- ・乗務員ごとに、運搬中事故等の「緊急連絡」訓練を実施(9 月 10 日～20 日の間)
- ・冬道における安全運転教育(雪道、凍結路でのクラッチ操作と注意事項・・・など)
- ・取扱廃棄物の制度や性状を正しく理解し、事故防止を図る教育



★運行前点検の実施

- ・アルコールチェッカー検査
- ・車両日常点検(タイヤのディスクホイールの取付け状態は点検ハンマーで実施)
- ・引取り先の廃棄物仕様の一覧表確認(廃棄物性状、保護具内容、皮着時の措置等)
- ・常備品の確認(ウエス、吸着マット、パッキン等)・・・等

★資格取得・講習(乗務員)の積極的取組

- ・独立行政法人 自動車事故対策機構「適正診断」を受講(全員受講済み)
- ・(財)中部トラック総合研修センター「エコドライブ講習」受講(全員受講済み)
- ・危険物取扱者乙 4 類資格取得(19 年度 4 名)
- ・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習(19 年度 4 名)
- ・有機溶剤作業主任者技能講習(19 年度 1 名)

● 安全・環境に関する研修会の開催

- | | |
|-----|--|
| 日時等 | 平成 19 年 11 月 10 日 68 名参加(関連会社含む) |
| 内容 | 講演 「廃棄物の知識」 山路技術部長
ビデオ上映 「考えよう事業所の地震安全対策」
実習 「危険予知訓練」(班別訓練・発表) |

※その他 ISO14001 に係る教育・訓練、ヒヤリハット事例検討会など多数実施



環境コミュニケーションを大切に考えます

環境に関する情報を開示し、積極的に環境コミュニケーションを図ることにより、地域社会や顧客の信頼を得るとともに、自らの環境活動を継続的に改善する企業でありたいと考え行動し、このための取組を一步一步着実に築きあげます。

このため、一層の環境コミュニケーションの充実を図り、皆様からのご意見やご指導をいただく機会を増やす努力を重ねます。

● ISO14001 認証取得

- 2004 年 11 月 1 日 北勢工場取得
- 2005 年 11 月 10 日 全社拡大認証取得 (2007 年 10 月 12 日更新審査・確認)

はじめは、事業活動における環境負荷のほとんどを占める北勢工場において認証取得しました。しかし、当社の環境方針をお客様や地域の皆様にご理解いただくためには、営業活動にあたる社員はもとより、全社員がこれを理解し実行することが大切であるとの考えに至り、全社に拡大認証取得しました。

● ホームページ開設

事業活動のほか、環境への取組について幅広く公表

URL : <http://www.snk-techno.co.jp/>

● 環境報告書（「安全・環境経営レポート」第四版の作成・公表）

平成 17 年 9 月に第一回環境報告書（「安全・環境経営レポート」16 年度活動報告）、平成 18 年 9 月に第二版（17 年度活動報告）、平成 19 年 8 月に第三版（18 年度活動報告）を作成し、公表したの続き、今回、更なる環境に関する積極的な情報の開示に留意して、第四版（19 年度活動報告）を作成し、公表しました。

なお、この報告書は、今後とも様々なご意見やご提案をいただきながら改善し、毎年発行することとしています。

● 工場見学（視察）の積極的受入

平成 19 年度 117 社 195 名（18 年度 96 社 176 名）の皆様にご視察いただきました。

● リーディング産業展みえ 2007 に出展

平成 19 年 11 月 9 日・10 日に三重県四日市市の四日市ドームで開催されたリーディング産業展みえ 2007（エネルギー・環境ゾーン）に出展しました。

- ・ 主 催 リーディング産業展みえ実行委員会
- ・ 開催状況 出展者数 183 来場者数 6,821 人
- ・ 当社出展 廃油等のエマルジョン燃料への再生処理フロー図、廃棄物サンプル等



このほか、同時に開催された「みえ・グリーン購入倶楽部スタンプ&クイズラリー」にも参加。参加者の景品の一部としてエコバックを提供

● 2007 NEW 環境展（名古屋）に出展

平成 19 年 11 月 14 日～16 日に名古屋市のポートメッセなごやで開催された 2007NEW 環境展に出展しました。

- ・ 主 催 (株)日報アイ・ビー（協催 愛知県）
- ・ テ ー マ 守ろう地球 創ろう共生社会
- ・ 開催状況 出展者数 130 来場者数 27,011 人
- ・ 当社出展 廃油等のエマルジョン燃料への再生処理フロー図、廃棄物サンプル等

● 三重県ホームページ「三重の環境と森林」生川社長インタビュー

三重の環境と森林 HP (<http://www.eco.pref.mie.jp>)「この人にインタビュー」のページに、企業活動における環境への取組について、様々な角度からのインタビューにお答えしております。平成 16 年 5 月 3 日の掲載です。

一度、ご覧いただければ幸いです。

● その他

- (財)産業廃棄物処理事業振興財団が実施する「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度」に参加し情報公開
- 三重県環境森林部「企業環境ネットワーク・みえ」会員
- みえ・グリーン購入倶楽部会員 グリーン購入ネットワーク会員

私たちこそが、心通わせ信頼を醸成する
最良の環境コミュニケーションツールでありたいと行動します。



統括本部



北勢工場

● 環境メモ

この報告書をご覧いただいてのご意見やご提案などをメモしていただき、お聞かせいただく機会があれば幸いです。

※ 報告に当たっての基本的要件

- **対象組織** 社員53名の小規模企業のため、全組織・全社員の連携で事業活動が行われていることから、会社全体を対象。
また、廃棄物の再資源化が事業の中核であることから、協働・連携する企業間の関係についても記載。
- **対象期間** 2007年4月～2008年3月（直近事業年度）を基本としていますが、必要に応じ現在の状況や計画などについても記載。
 - ・第一回報告 2005年9月（2004年4月～2005年3月分）
 - ・第二回報告 2006年9月（2005年4月～2006年3月分）
 - ・第三回報告 2007年8月（2006年4月～2007年3月分）
 - ・今回 報告 2008年7月（2007年4月～2008年3月分）
 - ・次回の予定 2009年7月（2008年4月～2009年3月分）
- **対象分野** 報告の基軸は環境的側面であるが、事業の性格上、「安全」と「環境経営」の理念を一体として捉える必要から「安全・環境経営レポート」として作成。

統括本部 三重県四日市市清水町4番45号
☎510-0814 Tel 059-332-3711 Fax 059-332-2132

URL: <http://www.snk-techno.co.jp>
E-mail: eigyoubu@snk-techno.co.jp



東名阪「四日市IC」より 車で約15分 距離8km

北勢工場 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
☎511-0417 Tel 0594-72-7850 Fax 0594-72-7851



東名阪「桑名IC」より 車で約30分 距離18km
東名阪「四日市IC」より 車で約35分 距離22km
名神「関ヶ原IC」より 車で約35分 距離28km